

山行（杜牧）

遠く寒山に上れば石徑斜なり

解説 秋のものとさびしい一日、山を歩いて美しい紅葉を賞した詩。

遠上寒山石徑斜 白雲生處有人家  
停車坐愛楓林晚 霜葉紅於二月花

白雲生ずる処人家有り

語釈 ※山行Ⅱ山あるき。※寒山Ⅱ秋になって木の葉が枯れ落ちたものとさびしい山。※石徑Ⅱ石の多い小道。※車Ⅱ石の多い山道を登って行くのに、車を用いる。※坐Ⅱわけもなく。なんとということなしに。※霜葉Ⅱ霜によって紅葉した木の葉。※二月花Ⅱ二月は旧暦の二月で、今の三〜四月ごろ。花の盛りのころ

車を停めて坐に愛す楓林の晩

通釈 遠くものとさびしい山に登っていくと、石ころの多い小道が斜めに続いている。そしてそのはるか上のあたりの白雲の生ずるところに人家が見える。わたしは車を止めて、気のむくままに、夕暮れの楓の林の景色を愛で眺めたが、霜のために紅葉した葉は、春二月ごろに咲く花よりも、なお一層美しく赤いことであった。

霜葉は二月の花よりも紅なり